

北海道地区本部第31回拡大執行委員会を開催 北海道地方協議会全道総決起集会を開催



地区本部は3月7日、札幌市内において、第31回拡大執行委員会を開催しました。

会を代表して菊地委員長は、「鉄道人身傷害事故が連続して発生しており、安全への信頼を損なう事象も多発し、信頼信用を大きく損なう非常事態と言わざるを得ない状況になっている。死亡事故・重大労災の撲滅に向け、実効ある安全対策を早急に構築し、安心して働き続けられる環境作りが必要である。貨物会社を魅力ある企業、就職したい企業とするため

にも、賃金を始めとする諸労働条件の改善を図り、離職防止・優秀な人材の確保と魅力ある労働条件の創出、採用競争力の強化に向けた取り組みを強めて行かなければならない。2027年度に改正を迎えるアボコスルールの取扱いと北海道新幹線札幌延伸に伴う並行在来線問題など、経営の根幹に関わる重要課題への対策など、JR連合と共に取り組んでいく」と挨拶がありました。



質疑では、安全問題、2026春闘、出向先の労働条件、シニア社員のあり方などについて意見が出され、吉永書記長の集約答弁を経て、2026春闘の当面する取り組みと具体的な行動を確認し、拡大執行委員会を終了しました。



3月1日、札幌市内においてJR連合北海道地協主催で「2026春闘勝利と安全の確立、政策・組織課題の解決にむけて」をスローガンに全道総決起集会が開催されました。浦島副委員長（貨物鉄産労）による開会挨拶後、主催者を代表して人見議長（JR北労組）よりご挨拶をいただき、来賓挨拶では、連合北海道・須間会長、北海道平和運動フォーラム・蒲地代表、JR連合住吉局長、JR連合谷口局長、4名よりご挨拶をいただき、2026春季生活闘争方針について課題認識の共有と意思統一を図りました。

決意表明では、浦島副委員長が安全確立と貨物会社の状況、春闘の取り組み、組織課題について報告し、その後、集会宣言を全体で確認してJR連合北海道地協の仲間と共に2026春闘を闘い抜く意思統一を図りました。